

チーム力の向上=自分の成長

開発の苦しみ、喜び、希望、そして、感謝

オーストリアSt.Gilgenの寮から約1900km先のスペイン Zueraまで、今回はザルツブルグ=マヨルカ島=サラゴサと飛行機での一人旅で向った。マラガ、バレンシアに続き3度目のスペイン。この国の雰囲気はとても好きだ。初めて訪れたZueraは想像通り広大なコースだ。10/24水曜日、エンジンの馴らしから走行を開始した。水曜、10/25木曜日と、順調にマシンとエンジンのセットアップが進み、常にトップタイム又はトップグループのタイムを刻んでいた。チームの総合力が上がっている事を実感し、週末に向け、かつてない好感触でのスタートとなった。10/26金曜日は雨になった。公式予選前の3回のフリー走行では前日に続きセットアップが順調に進んだ。【公式予選29位/40台中】公式予選開始のタイミングで雨が止み、路面はどんどん乾いてきていた。難しい選択を強いられる中、レインタイヤでセットはドライ寄りに振ったのだが、走行時間の15分間は結果的にそれがマッチせず完全に裏目に出してしまった。正になす術無し。練習走行の好調から一転、酷い順位となったが、翌日の予選ヒートに向けては、明るく前向きな気持ちだった。10/27土曜日は晴れているがとても風が強く寒いというコンディションとなった。【予選ヒートA+B9周・15番手スタート5位】スタートで後方から追突され最後尾まで落ちたが非常にペースが良く、追い上げて5位。【予選ヒートA+C9周・15番手スタート7位】少しセッティング変更を試した。あまりペースは良くなかったが、自分なりに切り捌いて行き7位。【予選ヒートA+D9周・15番手スタート4位】この日最高のスピードを見せられた。常にセクター2（高速テクニカルセクション）が速く、とにかくマシン全体のバランスが良く、終始安定していてチェッカーまでストレスのない走行ができた。3位が射程圏内に入ったところで時間切れ。4位。全てのヒートで速さがあり、順調にポジションを上げた事で、翌日のプレファイナルのグリッドは7番手を獲得した。この日のチーム全体のパフォーマンスは、スペインの太陽のように輝いていた。10/28日曜日とも天気には恵まれた。朝のウォームアップ走行では、タイヤの状態が悪い中トップと1000分の3秒差の3位につけた。否が応でも期待が高まる。【プレファイナル12周・7番手スタート9位】

スタートでうまくポジションを上げ、一時5番手を走行していたが、その後路面の変化とギヤセットがズレてしまいスピードが鈍り9位でチェッカー。【ファイナル15周・9番手スタート10位】スタートでそれなりに順位を上げるが、5周過ぎからの路面とタイヤの変化に対しマシンのスタビリティがなくなってしまい苦しい展開になった。4位から10位くらいまで僅差の攻防だったので、何とかロスを最小限に食い止めながら踏ん張って、その集団に残るのが精一杯だった。10位チェッカー。目標であったEUROでの1勝は夢に終わった。今シーズン開発の一端を担ってレース活動をしてきたが、生き物である路面や天候のコンディションの変化にマシンを合わせ込むのに、スイートスポットの幅が狭いという部分で苦労があったことは否定できない。うまく決まった時には力を発揮できるというのは、このレースウィークで証明できたのではないかと思う。一年間、常に1000分の1秒でも速く走らせたいと、チームと一緒に考え、試行錯誤してきたことは、まだまだチャンピオンチームの経験やデータには及ばないかもしれないが、確実に積み上げられているはずだ。それがこの先のチームの幸福や飛躍に役立つよう願っている。チームでお世話になったErnst監督、Williamメカ、最後までレースに帯同してくれたDanilo、Darrellさん、Jenniさんにあらためて感謝したい。そして、去年のようにEUROチャンピオン、ワールドチャンピオンを期待して応援してくださった日本の方々には、なかなか理解していただくのは簡単ではないし、本当に申し訳なかったと思う。しかし、このような経験ができたことは、自分自身にとっても大きな財産になっているし夢の1勝よりも価値があるのではないかとさえ感じている。レースにおいては避けられないアクシデントや、時にはミスもあったが、とにかく必死に戦ったシーズンだった。自分としては、これでカートレースは卒業としたい希望を持っているが、全力を出し切ったので悔いは無い。引き続きヨーロッパに身を置きながら、学校生活や社会生活をしっかり頑張っ、語学や文化に馴染み、より多くの財産を身につけて、次のステップのための準備を怠らないようにしていくつもりだ。皆様、応援を本当にありがとうございました。右京